



農業地域における地下水を軸とした水循環評価に向けたフィールド調査

生物資源科学部 助教 吉岡 有美

雨、河川、湖沼など私達の生活圏には、さまざまな場所に水があります。水がいつ、どこに、どれだけ存在するかを知ることは、持続的な水利用のためには非常に重要です。目には見えませんが、地面の下には地下水が大量に存在しています。地下水は、地球上の海水や氷河などを除いた利用可能な淡水資源の98.7パーセントを占め、河川水の5000倍以上になります。

雨や河川の水などが地面の上にある水（地表水といいます）が浸透した結果、地下水ができます。ときには逆に、地下水が河川に湧出することもあり、地表水と地下水は相互に関係しています。山から海に至るまでの地域の水の関係（循環系）を知ることが、地域にあるさまざまな水の量や質の評価につながっていきます。

そこで、水田など農業地域において、地表水ののうち、どの水がどれだけの割合で地下水に寄与しているかについて、現地での採水や水質分析などを通して評価する研究に取り組んでいます。